

人民銀行の利上げ

田中 修

人民銀行は2月8日、9日から預金・貸出基準金利を引き上げる旨発表した。これにより、1年物預金基準金利は0.25ポイント引き上げられ3.00%に、1年物貸出基準金利も0.25%引き上げられ6.06%となった。

今回の利上げには、次の背景があったものと思われる。

消費者物価の再上昇

統計は未だ発表されていないが、年末から1月上旬にかけて悪天候や春節の需要拡大による物価再上昇の情報が流れており、1月のCPIの上昇率はおそらく12月の4.6%を上回ったものと思われる。このため、人民銀行としては、実質マイナス金利の幅を縮小する必要が生じた。

新規貸出の増加

これも統計は未だ発表されていないが、12月中旬以降新規貸出を抑え込んだ反動で、1月最初の2週間に貸出の急増がみられ、月間では1兆元を突破したものとみられている。例えば、申銀万国証券の李慧勇アナリストは、1月の新規貸出は1.2兆元を突破した可能性があるとしている（中新社2011年2月8日）。

国際一次産品価格の上昇

国際一次産品価格が上昇傾向にあり、エジプトの政情不安等がこれに更に拍車をかける可能性がある。これがやがてPPIの上昇を通じてCPIに波及するおそれがある。

住宅価格対策

利上げは、住宅購入コストを引き上げることになるため、住宅価格の沈静化にも資する。

治安対策

春節の休暇を終え、出稼ぎ農民が続々と都市に戻ってくる時期に物価が上昇していると、労働者が賃上げを求め労働争議が発生するおそれがある。また、都市にいる貧窮大卒者がこれに呼応する可能性もあり¹、当局はインフレを契機に国内でチュニジア・エジプトのような事態が発生することを警戒しているのであろう。

（2月10日記）

¹ チュニジアの政権崩壊は、貧困青年の焼身自殺に端を発している。